

出前授業“教えることは学ぶこと”の実践報告

―地域の特性を生かしながら行う、小学校の総合学習との連携を図った学習指導―

千葉県立〇〇高等学校 〇〇〇〇 (芸術科書道)

一 はじめに

この度、教科研究員の委嘱を受けることとなった。年齢的には中堅といわれる域に達しているものの、一〇年目の悉皆研修を来年に控えているような、教員として浅薄なこの私にできることは何かと悩んだ。結果、昨今、中学校の書写との連携が問われる中、ここ数年書道部の活動を通して実践してきた小学生との交流をより発展的にし、授業生徒による出前授業を試みることにした。

対象生徒は書道Ⅲの選択者とし、出前授業を通して生徒が自ら学んだ知識や筆法を、児童に教えることで学習の深化が図れないか？また、自らの学習成果を教えることの楽しさ、難しさを併せて体験することはできないか？と考えた。更に、地域の文学作品を主体的な構想に基づき個性的、創造的な表現を追及させながら作品制作に臨むことで、高等学校書道教育のまとめとさせたいと考えている。そして願わくはこれらの活動を通して、生涯にわたって書を愛好し、文化の継承を担う成員としてのキャリア教育の一助としたい。

また、交流する児童の対象を第六学年とし、普段の教師による授業とは異なるお姉さん達との授業展開に、親近感を持つて取り組んでもらえればと考えている。もちろん「正しく」「形を整えて」「字配りよく」という書写の目標に立脚し、加えて児童たちが未経験と思われる多種多様な用具・用材を用い筆文字に関心を寄せさせたいと考えている。ひいては、彼らが将来、高校入学時の芸術を選択する際の選択肢になれば…などと考え取り組むこととした。

二 これまでの経緯 (〇〇小学校との交流)

本校はいわゆる新設校ラッシュともいえる昭和四六六年に開校した。昭和四

〇〇高校(中央)と隣接する〇〇小学校(左上)



指導者養成講習会



〇年代初頭は、新日本製鉄君津製鉄所が開業された関係で、九州からの転居者が激増し、それに対応すべく〇〇の台に四つの学校が開校された。北方から〇〇高校・〇〇小学校・〇〇中学校・〇〇小学校が隣接して建てられ、地域では「山の上四校」と呼ばれている。

本校では前任の〇〇〇先生(現・〇〇〇高校)の発案により、平成一五年頃より教師が〇〇小学校へ出向き書初めの指導を行っていた。転勤した一年目、出前授業を踏襲し、一二月の定期考査時の午後を使い、小学三年生から六年生まで各学年二時間ずつ指導に当たった。〇〇小学校は各学年とも二クラスで編成され、概ね五〇〜六〇名である。書写部会に所属する教員もいるが、各担任によって書写指導の温度差があることは否めない。普段は机上で書く半紙が主流で、半切1/4のいわゆる書初めサイズを床で書くことは三年生にとつては初めての経験であり、執筆法や姿勢を指導するだけでもかなりの時間を費やした。また、この紙を規定の文字数に折る作業に要する時間などは想定外であった。字形の取り方、運筆法、名前の入れ方など二時間では到底時間の足りる由もなかった。

赴任したてで何もわからず過ぎ去っていった一年目であったが、隣接する小中学校とはさまざまな交流があることに気づいた。吹奏楽部の主催による「山の上コンサート」は二校の小学校の全児童が本校に来校し、約一時間半体育館で音楽会を楽しむもので、既に一回を超え、年の瀬の風物詩となっている。

また、平成一七年度から三年間の研究指定を受け、先進的な高等学校づくり（パイロット・ハイスクール）推進事業の一環として、本校英語コースの二年生が小中学生に英語の出張授業を展開している。これらの交流を通して本校に関心を寄せ、入学してくる生徒が多いということもわかった。ならば書道部の生徒もこれができるか？というのが発想の原点である。

二年目、時の書道部員一名を引率し、出前授業を試みた。事前指導では各学年の指導ポイントを解説・練習し、時には部員相互が指導者に、そして児童役にもなって“指導者養成講習会”を実施した。各学年二時間の計画時間のうち、書道部員による出前授業を各学年とも一時間ずつ、都合四時間を二日に分けて実施した。初めは恥らっていた部員も、無邪気に語りかけてくる児童に、熱心に筆を執り教える姿が見られた。私一人で六〇人を見るには限界があるが、書道部員を分担し、一人五、六人の児童を担当させると指導効果は自ずと高まった。もちろん、児童からも好評であった。二度目の引率に当たる平成二〇年度には、指導後、三年生から六年生までの全児童からお礼の手紙が届けられ、慌てて部員の返札カードを書くという予期せぬ交流も生まれた。また、これらの活動を通して教えることの楽しさ、難しさを知った部員の中から、小学校の教員と書道の教員に就きたいという生徒が現れ、現在、大学で夢の実現に努力をしている。この将来の夢を芽生えさせた交流会は、児童・生徒の相乗的学習効果が現れた成果だと考えている。



※〇〇小六年生からの手紙  
(平成二〇年度版)  
(原文のまま転載途中省略有)  
・教わったとおりに書いたものと、最初の授業の一番最初に書いたものを見比べると、とても形がよくなっていました。  
・一回だったけど、二回指導してもらったってくらい教わりました。

・中学や高校でも習字をやってみたいと思いました。  
・私もみなさんのようにうまくなれるといいと思います。君高に入れたら書道部に入ってみたいと思いました。

・「初雪の山」(書き初め課題)は漢字が多く、とても大変で自信がなかったけれど、書道部のおねえさんが「上手だね」と声をかけてくれて、とてもうれしく自分に自信が持て、堂々と書けました。

・みなさんのおかげで字がきれいになったら書道が楽しくなりました。ぼくたちに書道を教えてくれてありがとうございます。

・ぼくが書きはじめの部分に困っている時に、三年生の方が近寄って来て一緒に筆を持って教えてくれた。その後は、うまく書きはじめができてうれしかったです。書道の事あまり好きとは思っていませんでしたが、教えてくれたおかげか、好きになりました。

### 三 学習計画

#### (一) 三年間の学習計画

一年次には主に漢字仮名交じり(書写との関連をもたせて)・楷書(初唐の三大家・偶寺心経)・行書(蘭亭序)・隸書(曹全碑)・仮名(高野切)を学習しながら、書道の基本的な用筆法の習得と、臨書の意義を理解させることに主眼を置いている。

二年次では主に篆書(泰山刻石)・篆刻(姓名印)・隸書(木簡)・草書(書譜・十七帖)等を学習し、基礎基本の定着を図りつつ、学年末のまとめとしての創作学習で、個性的な表現の取り組みを行っている。

三年次では、それまで学習した書道の知識・用筆法の深化を図りつつ、総まとめの取り組みとして、隣接する小学校へ出向き出前授業を実施している。また、授業内での作品や、出前授業の一環で仕上げた相互の作品を、公共施設(校外)に展示し、制作する楽しさ・展示する喜び・教える緊張感等が味わえるように計画している。

#### (二) 三年次の主な年間学習計画(平成二一年度の例)

四月 細字による臨書(蘭亭序)

- 五月 大筆による臨書（半切・王鐸行書帖）
- 六月 表札原稿作り
- 七月 表札刻字
- 九月 出前授業の事前学習
- 一〇月 第一回出前授業
- 一一月 第二回出前授業
- 一二月 第三回出前授業
- 一月 実用書（年賀状）
- 大筆による創作の学習（半切1/4）

(三) 出前授業の時間配当

- 第一回事前学習 書写材料についての調べ学習 (二時間)
- 書写材料の違いによる表現の相違 (二時間)
- 生徒による模擬授業 (二時間)
- 教師による模擬授業 (二時間)
- 多様な筆や書写材料の違いによる表現 (二時間)
- ワークシートの記入とメッセージ書き (二時間)
- 事後学習 (二時間)
- 第二回事前学習 大字書の表現 (二時間)
- 出前授業時の手順の確認 (二時間)
- 特大筆による一字書の体験 (二時間)
- ワークシートの記入とメッセージ書き (二時間)
- 事後学習 (二時間)
- 第三回事前学習 書写に基づき地域の文学作品の揮毫 (二時間)
- 生徒による模擬授業 (二時間)
- 地域の文学作品への関心と揮毫 (二時間)
- 反省・まとめとメッセージ書き (二時間)
- 事後学習 (二時間)

四 出前授業における指導概要

(一) 平成二一・二二年度の指導概要は次の通りである。

注①	出前授業実施日		主な学習内容
	二一年度	二二年度②	
第一回	一〇月六日	五月一日	多様な筆や書写材料による多彩な表現
第二回	一〇月二二日	六月四日	特大筆による一字書の体験
第三回	十一月九日	七月九日	地域の文学作品への関心と揮毫
注②	二月二八日～三月四日	一月二五日～二八日	児童・生徒による合同書作展

注① ○〇市生涯学習交流センターにて開催  
注② ゴシックは二二年度を示す 以下同様

※平成二二年度書道Ⅲの授業選択者は九名（女子九名）である。

※平成二二年度書道Ⅲの授業選択者は七名（男子一名・女子六名）である。

※生徒の小学校訪問は、年間三回とした。設定の理由は次の通りである。

**第一回** 児童にはそれまでの書写の概念を離れ、多様な書写材料を用いることで興味・関心を抱けることを目的とした。生徒には、これまでに書道の授業で学習してきた用具等を再認識する機会とした。

**第二回** 児童・生徒ともに、時勢ともいえる書道パフォーマンスを体験させることで、多角的な書の楽しみを味わうことを目的とした。

**第三回** 小学校の書写、高校の書道の学習内容に即しながら、相互の立場で作品制作に臨むことで、出前授業のまとめとした。また、地域の文学作品や歌を揮毫することで、郷土愛を育むことを目的とした。

※一回については、小学校の一単位あたり四五分に、移動・準備・片付け等の時間を加え、生徒は都合二単位時間（一時間は書道、これに連続する一時間は公欠扱い）の訪問とする。

※訪問に当たっては、事前指導を綿密に行うこととした。

※児童にとっては書写の内容を逸脱する部分もあるため、多様な表現の一部に“書写の美”“芸術的な美”があることに触れた。このため先生方には、総合学習の時間としてとらえていただくことを承いただいた。



(二) 第一回出前授業実施概要 (平成二一、二二年度)

平成二一年一〇月六日(火) 平成二二年五月一四日(金)

期 日 平成二一年一〇月六日(火) 平成二二年五月一四日(金)  
時 限 一〇時三〇分〜一一時一五分(〇〇小学校 第三時限目)  
対 象 六年一組 二組(四八名) 各教室にて同時展開

(五七名) 体育館にて合同展開

学習内容  
学習目標

多様な筆や書写材料による多彩な表現。  
それぞれの書写材料についてその特性を熟知する。  
指導者としての立場を意識し、言語表現の工夫をしながら児童とのコミュニケーションを図り、的確な評価をする。  
自身の進路について考える機会とする。

学習展開

展 開 生徒の自己紹介。  
生徒による持参した用具用材の説明。

筆 剛毛・柔毛・兼毛の短鋒・長鋒

墨 濃墨・淡墨

紙 滲まない紙・滲む紙

多様な用材・用具で試書し好みのものを選択。

好きな漢字一字を半紙に揮毫。

感想を発表 ワークシートに記入し提出。

評 価

【関心・意欲・態度】  
書写材料の特性を理解できたか。  
児童に授業をする上で、指導者としての言語表現の工夫がなされてきたか。  
【芸術的な感受や表現の工夫】  
児童の作品を的確に評価できているか。  
【鑑賞の能力】  
自身の進路を考える機会となったか。  
【関心…】  
持参する文房について熟知させる。

事前指導

生徒自身が剛毛・柔毛、濃墨・淡墨、滲まない紙・滲む紙を使用し、異なる趣を体験させた上で児童の感想が導けるような発問を考えさせる。ワークシートに記入する。

事後指導

反省事項や改善点、感想をワークシートに記入し提出する。  
児童の提出作品を鑑賞し、感想等をメッセージカードに記入し、次回の授業で児童に返却する。

模擬授業 (同級生を相手に出前授業の体験練習)



第一回出前授業風景  
筆の説明



アドバイス

作品鑑賞



生徒 事後学習ワークシートの内容 (抜粋)

人に何かを教えるという経験を通してどのようなことを学んだか

・言葉を選んで話すことを経験できて良かった。子どもの素直な反応に驚かされることがあった。  
・問いかけていることに対して何の反応もなければ、お互いに嫌な気持ちになり、楽しい授業にはならないと思う。コミュニケーションを取り合うこ

とが、よりよい人間関係を作ることだと思つた。

今回の経験が自分の将来にどのような成果として現れてくるかと思ふか

・本当にいろいろな性格をした違った子が沢山いたので、人の性格を読んで、相手が楽しく不快な思いをしないように接するという面で自分が接客をする立場になった時に生かせると思ふ。

・伝える相手によって言葉をわかりやすくし、いろいろと変える部分があった。相手に最良の方法を考えて、話をしていきたいと思ふ。(特別支援児童の担当生徒)

・〇〇小学校に行ったことで、外の社会の世界でのコミュニケーションが取れたので、接客や説明のときなどに要点がはっきり見えてくるようになると思ふ。

・将来、保育士の道を志望しているのでとてもいい経験になりました。子どもとのコミュニケーションを取ることに難しさを痛感しました。

今回の出前授業全体を通しての感想をまとめよう

・進行役として児童の前で仕切ってみて、勉強になったことがたくさんあった。書道以外の面でもすごく良い経験になった。小学校の先生方からお褒めの言葉をいただき自分自身の自信にもなった。

・担当児童の名前を覚えておいて、紙や墨を配る時に「〇〇君だよね」と確認していたらとても嬉しそうに驚いていました。授業内容だけでなく何気ないことも喜んでくれて嬉しくなりました。



超長鋒を用いての揮



淡墨を用いての揮毫



児童にメッセージカード書き

### ※第一回出前授業考察

事前学習として、四時間をあて文房四宝の下調べからはじめた。今までは教わる立場であった生徒が、児童に指導する立場となったことで、その学習態度に自ずと熱が入った感じがした。中には自宅でインターネットを使い、担当する用具について調べてきた生徒もいた。更に、掲示資料の作成や、教科書の図版を拡大カラーコピーで準備したりと、児童に少しでもわかりやすくしようと工夫している姿が見受けられた。中には前夜、母親を児童に見立てて模擬授業をし、本番に備える生徒もいたようだ。また、生徒に多種類の筆の実習や、書写材料の違いによる表現の違いを感じさせることで、児童からの感想を導きやすかった。しかし、やはりそこは高校生。実際の出前授業が始まると、人前で話す緊張から当然思うように展開ができない。が、苦心しながらも最後まで努力する姿は評価に値した。

生徒の感想を見ると、建設的なものが多く見られた。特に自身の進路との兼ね合いでは、偶然ではあるが、保育士を目指す生徒が多いことに驚かされた。また、接客業を希望する生徒も多く、今回の出前授業で、コミュニケーションの重要性を認識したかのようで、初回としては学習目標をクリアしたものと思われる。

### (三) 第二回出前授業実施概要

期 日 平成二十一年一月二二日(火) 平成二十二年六月四日(金)  
時 限 一〇時三〇分～一〇時一五分(〇〇小学校 第三時限目)  
対 象 六年一組 二組(四八名) 体育館にて合同展開

### (五七名) 体育館にて合同展開

学習内容 特大筆による一字書の体験。  
学習目標 特大筆を用いて一字書を体験することで、多彩な表現について理解する。

児童とのコミュニケーションを図りながら、一字書の体験が円滑に進められるように手順を周知する。  
メッセージカードに児童の作品を的確に評価し、意欲が湧く内容で批評をする。

## 学習展開

自身の進路を考える機会とする。  
導入 前時の作品を返却し感想を述べる。  
展開 一字書の注意事項説明と生徒による実演揮毫。  
全紙1/2の方形紙に前時の漢字を揮毫。  
(淡墨を使用)

すべての児童が体験できるように配慮する。  
感想をワークシートに記入。

次時の揮毫作品について資料提示と説明。

## 評価

特大筆・淡墨による多彩な表現を理解できたか。【芸術的な…】

児童と円滑なコミュニケーションを図れたか。【関心…】

児童の作品を的確に評価できているか。【鑑賞…】

自身の進路を考える機会となったか。【関心…】

## 事前指導

生徒に一字書を体験させ、注意事項をまとめさせる。

## 事後指導

墨の取り扱いに留意させ、児童が揮毫する時のサポートを心掛ける。

反省事項や改善点、感想をワークシートに記入し提出する。  
児童の提出作品を鑑賞し、感想等をメッセージカードに記入し、  
次回の授業で児童に返却する。

## 特大筆による一字書の出前授業

生徒による揮毫披露



児童による揮毫体験



担任による揮毫体験



児童揮毫一字書の作品披露（第二回時）



生徒事後学習ワークシートの内容  
(抜粋)

今回の出前授業全体を通しての感想をまとめよう

・今回は前回より私も児童も慣れてきたので、楽しんでやることができました。大きな筆だったので、初めて使う驚きの反応がとてもよくて、この出前授業をやってよかったなという気持ちになりました。

生徒展示作品





・小学生からの事前ワークシートを見て、一人一人のイメージを膨らませて授業に望みました。しかし、実際に会って話してみると、そのイメージがガラッと変わったたりして：やはり交流するということはとても大切だと思いました。

#### 児童 事後学習ワークシートの内容

出前授業で思ったことや感想、お姉さんへのメッセージ等を書いて下さい。

・テレビでやっている書道パフォーマンスを自分でやれるなんてすごいと思っただし、そう簡単にやれる機会がないのでとても良い経験をしたと思います。

・あんなに大きな筆と紙を使って書いて、すごくすつきりした。友達に自慢したいくらいです。

・もっと〇〇高校のお姉さんと書道がしたいです。特に太い筆で書いた時のお姉さんのすがたがすごくかっこ良かったです。次回は最後なので楽しみたいです。

#### ※第二回出前授業考察

今、時世ともいえる書道パフォーマンス。昨年春にはNHKで書を題材とした高校生青春ドラマが放映され、夏には映画化、民放では特大筆を振るいながら華やかに舞っている姿に喝采がおくられている。書とパフォーマンス性との兼ね合いが賛否の分かれるところでもある。しかし、数年前まで小学生に書道に関係する用語を尋ねても、ほとんど無回答であったことと思われる。事実、昨年度に実施した書道パフォーマンスの出前授業では、その認知度はほとんどなかったが、今年度は多数の児童が書道パフォーマンスに関して承知していた。高校生の話題性で振り返ってみても、九〇年代に親しまれた「莫山先生」、近年では「相田みつお」に次ぐ認知度ではないであろうか。書道パフォーマンスは導入期において、書への興味・関心を抱かせる啓蒙的な役割として評価されるべきと考える。

アンケートを集約すると、やはり生徒・児童ともに、この出前授業が一番印象深かったようである。もちろん想定内のことであるが、中には人前で書

くことに抵抗を感じ「大字書はもうやりたくない。」と回答する児童も数名いた。本時は高校生がサポート役にまわり、担当児童の揮毫のアシスタントをさせた。児童とは約一カ月ぶりの再会であったが、初回に比べ緊張感は和らぎ、お互いに生き生きした目で、特大筆を楽しんでいる姿が印象的であった。

#### (四) 第三回出前授業実施概要

期 日 平成二十一年十一月十九日(金) 平成二十二年七月九日(金)

時 限 一〇時三〇分～一十一時一五分(〇〇小学校 第三時限目)

対 象 六年一組 二組(四人名) 体育館にて合同展開

学習内容 地域に関係した文学作品等への関心と揮毫

二一年度は童謡『証城寺の狸囃子』を四人名で分担揮毫

二二年度は『〇〇市民の歌』を五七人で分担揮毫

学習目標 地域の文学作品に関心を寄せ、それに関連する事項について理解をする。

小学校学習指導要領(六年国語)に基づき、書写指導のポイントを理解する。

示範時において児童の作品を的確に指導・評価をする。

自身の進路を考える機会とする。

学習展開 前時の大字書の優秀作品を披露する

展 開 生徒の作品(証城寺の狸囃子・〇〇市民の歌)を披露する

合同制作の意図を説明する

生徒による童謡『証城寺の狸囃子』の朗読

児童・生徒合同の〇〇市民の歌の合唱

作品揮毫(生徒による担当児童の書写指導)

デザイン展示シート作成の説明

感想をワークシートに記入

まとめ

地域に関係した文学作品等に関心を寄せ、それに関連する事項

について理解できたか。

【関心：】

書写指導のポイントを理解し、児童とのコミュニケーションを図れたか。

【創造的な表現の技能】

児童の作品を的確に評価できているか。

【鑑賞…】

自身の進路を考える機会となったか。

【関心…】

### 事前指導

生徒自身が地域の文学作品を意図とする作品に仕上げる。

揮毫作品を担当児童数で文節を単位として手本を用意（教師）

し、生徒に字形・用筆を習得させる。

### 事後指導

反省事項や感想をワークシートに記入し提出する。

児童の提出作品を鑑賞し、感想等をまとめメッセージカードに記入する。児童が各自でデザインした展示シートに、裏打ちした作品を添付する。

作品展示が終了したら児童に返却する。

### 生徒事後学習ワークシートの内容（抜粋）

回を重ねる毎に変化した心情や態度、コミュニケーションの取り方などは

- ・ 目線を同じ高さにして話しかけるようになりました。
- ・ 回が増すごとに担当の子どもの性格がよめてきたので、この子はほめてあげようとか気遣いができるようになった。
- ・ 自分の担当の子が回を重ねるごとにかわいくなっていた。
- ・ だんだん楽しさに変わっていった。
- ・ 初めはしっかり教えられるか緊張したけど、二回目からはどうしたらわかりやすく教えられるか考えながら行動するように心掛けていました。

出前授業を実施する前と実施後で何か変わったことはあるか

- ・ 保育士になりたいという気持ちが強くなった。一回、二回とやっているうちに授業が楽しくなっていた。
- ・ 書道に自信が持てるようになった。いろんな特徴ある字を学べてすごく良い勉強になったし、小学生を教えるということも含めてすごく自信につながった。
- ・ 子どもたちに教える楽しさを知りました。この授業を通して小学生を見る

### 生徒による書写指導



目が変わったような気がします。  
・ 小さい子と接する事が苦手だったけど、コミュニケーションのとり方がつかめて接しやすくなりました。

印象に残った児童の言葉があるか

・ 筆を持つと一緒に書いて教えてあげた時に「ああ、こうやって書くんだ」と納得してもらえたのがすごくうれしくて、自分の指導でも理解してくれたことに感動した。

出前授業を通して書道の見方や考え方に変化は見られたか

- ・ 今まで学ぶ立場で書道を楽しんでいたけど、今回の出前授業で教える立場からの楽しさや苦労を知りました。
- ・ 部活で作品書きばかりしていると大変という思いしかなかったけど、実際に教える立場になって、改めて書道って楽しいと思うことができた。教える立場になるのもいいなと思った。
- ・ 太い筆で墨を飛ばしたり、墨や筆、紙を変えて違った味を出したり、皆で一つの童謡を作品にしたり…。書道でもいろいろな楽しみ方、味い方があるということを知ることができた。書道がとても楽しいと気づくことができた。
- ・ 書道が前から好きだったけど、この三回の出前授業でもっと好きになりました。





童謡『証城寺の狸囃子』  
朗読



作品披露



・児童から話しかけられるのを待つだけではなく、積極的に自分から行動しなければいけないということを考えるようになった。習字の授業をあまり好きではない児童が楽しんで書いているのを見て、座って書くだけではなく、このような出前授業をすることをお習字が親しみやすくなると思った。

三回の出前授業の中で一番印象に残った授業は何回目か（二一年度）（二三年度）

※一回目（1/9）（1/7）

・一回目は自分たちで展開をしていくために事前準備、本番共に変化でした。でも小学生は初めて使う筆、墨、紙を楽しんでくれているのですごく嬉しく思ったし、次の授業でも頑張ろうと思えました。

※二回目（6/9）（5/7）

・小学生の新鮮で興奮した様子がすごく印象的な二回目。私自身、あれだけの太い筆で豪快に書いた事がなかった。事前授業の中で、自分で体験した時がとても楽しかったのと同じように、小学生も不安ながらも声を上げて盛り上がりつつあったので二回目良かったと思う。

・初めて大きな紙と筆を使う時にすごく目をキラキラさせていて、書き終えた後、みんな笑顔になっていて素敵な授業だなと印象に残っています。

※三回目（2/9）（1/7）

・それまでは担当児童全員と交流をとる事

ができなかったけど、この時は一対一でしっかりと話す事ができた。また、一緒に書きながら短時間ではあったが、指導前と指導後の成果がわかって嬉しく感じた。

この経験が将来の自分の進路にどの様な影響があると思われるか

・将来、接客業に就きたいと考えているので、子どもとの係わり合いを習得できたと思う。夢はトリマーになることですが、お客さんに正しいしつけの仕方などを教える時に、今回の経験が役立つように思えます。

・いろいろな経験を通して大変だった分、嬉しさを知りました。将来は小学生を対象に栄養学を教える職に就きたいと考えています。様々なタイプの子がいる集団に、よりわかる教え方を考える良い機会になりました。

・人それぞれ性格の違いがある中、その性格に合ったように接することとを学べた。将来、美容師になることを目指しているが、人と接することの難しさや、性格を読むといった面で勉強になった。昔なりたかった保育士もいいなと思えた交流授業となった。

・いろいろなタイプの子に、それぞれに合った言葉掛けをすることを心掛けた。将来、保育士の道に進み、もっと幅広い年齢の子と接していくことになるけど、この出前授業は良い経験にもなったと思う。

・今回の出前授業で書道の楽しさを再確認しました。将来、直接書道に関わることはないかも知れませんが、書道が続けていきたいと思えます。高校を卒業後、年間文化活動があるので必ず書道を選択したいと思います。

・今まで保育士になりたいという気持ちだけで、子どもと接する機会はほとんどなくて、正直、夢を実現できるか不安でした。でも、この書道選択で、小学生と触れ合い話すことでとても自信ができました。出前授業ができてよかったです。

三回の出前授業全体を通しての感想は

・今回の出前授業を通して一番感じたことは「書道は楽しい」ということです。

・初めの頃の不安や緊張も子どもたちに助けられて、二回目、三回目には楽しみに変わっていきました。みんなとても上手でしたが、その中で「ここが

難しい」とか聞いてきてくれる子もいて、とてもやりやすかったです。貴重な経験になりました。

・指導後の成果を見ると、自分の教え方が間違っていなかったと自信が持てた。

・思っていたより子ども達が素直で、一緒に楽しめて良かったと思う。三回目には示範をしたり、本当の先生になったみたいで、自分成長したなって思った。また機会があったら行きたいです。

・少ない時間でしたが良い経験になりました。特大筆を使用するの一字書や青墨を使うことなど、小学生にとって初めてのことが多く、楽しんでくれたことと思います。授業後に直接「ありがとう」と言いに来てくれた時はとても嬉しく感じました。小学生に書道を教えることは大変なこと、何度も練習をしました。失敗もしたけど楽しくできました。将来、教える立場になったとき、今回のことを生かしていきたいと思っています。

・とにかく楽しかったです。高校生の私にとって、もう小学生と触れ合う機会などなかったもので、出前授業と一緒に書道を学べて楽しかったです。教えることの大変さや、書道の楽しさを改めて実感することができました。

・私は小学二年生から書道をやっていますが、このような「教える」立場になって書道をやったのは初めてで、本当に戸惑いがたくさんありました。今まで、自分の感覚でやっていたものを、他人に口で説明することがこんなにも難しいものと思知らされました。まだまだ全然書道の知識がない私でも、小学生に指導することができ、しかも短時間で上手になってくれた子どもを見て、本当に良い経験ができたと思おりました。そしてまた、書道の知識を更に深めていきたいと思おりました。

### ※第三回出前授業考察

今回で最後となる出前授業である。児童には、皆で一つの作品を仕上げるという目標がある。また、生徒にとつては、書写指導の示範をするという双方にとつて、まさにクライマックスともいえる最終回である。

事前学習の中では、教師が児童に用意した手本（地域に関係した文学作品等）をコピーし、ポイントの把握と示範をするための練習を中心に行った。今回は、担当する全ての児童の手を取って、運筆を確認させることを義務付

けて臨んだ。初めは躊躇していた生徒も、三回目となる児童との交流で、すっかり打ち解けた中で書写指導が展開されていた。

第一回の出前授業の時より、担当する児童を割り振り、三回を通して交流にあたらせた。狭義では一〇名程度の児童としか交流がもてなかったという事にもなるが、このことが功を奏したのか、より良いコミュニケーションが図れていたように思われる。

事後アンケートを見ると、生徒が今回の授業にことのほか積極的に取り組み、自身の進路を考える機会となっていたことがわかる。何より、今回の取り組みで「書道が楽しい」と感じてくれた生徒が多かったことが、指導者としてこの取り組みを実施してよかったという喜びにつながった。

### 児童へのアンケート集計結果

三回の授業でどの内容が一番楽しかったか

一回目 14・6% 二回目 74・0% 三回目 11・5%

お習字が以前より

好きになった 84・4% 変わらない 12・5%

嫌いになった 3・1%

〇〇高校に入学を

したい 41・7% したくない 7・3% わからない 51・0%

今回の展示会場に自分の作品を

見に行く 64・6% 見に行かない 3・1% わからない 32・3%

五 生徒・児童による校外合同書道展（平成二二年度は二三年一月実施予定）

会 期 平成二二年二月二八日～三月四日

会 場 〇〇市生涯学習交流センター

展示作品 〇〇高校生徒（授業内作品・文学作品・一部一字書）

〇〇小児童（文学作品・書初め作品・一部一字書）

児童四八名による合同作品 (児童自身のデザインによる展示シート)



〇〇小学校との合同卒業書作展会場風景



授業作品 表札



生徒九名による合同作品 (折り帖仕立て)



授業内作品 王鐸行書幅





## 六 今後の課題

書道部の部員にとっては、日々の練習で技術を習得しているため、年末の書初め指導では細部にわたっての指導が可能である。しかし、三年生とはいえ授業選択者の力量は自ずと知れている。このような中で、実際に高校生が、小学生に書写の指導をすることができなのかという御指摘をいただいた。今回の取り組みでは、粗雑な表現ではあるが、あくまでも小学生は、高校生にとつてのキャリア教育の媒体として捉えている。高校生が習得した知識を、教えることの実践を通してコミュニケーション能力を育成し、また、書の多角的な楽しみを味わえればと思っている。このような活動の中で、願わくは児童にも書写技術の向上に結びついてもらいたい。

昨年、年度当初において急遽、教科研究員の委嘱を受けた。〇〇小学校には既に年間行事予定が決まっている中で、この事業について快諾をいただけただけ。これはそれまでの学校間の交流事業や、書初め指導などの布石があったためと考えられる。やはり、歩いていける距離、地理的な条件が重要なポイントとなるが、今後、荒削りな面を修正しながら、更に幅を広げて、中学校や特別養護老人ホームなども視野に入れ、展開していきたい。

書道Ⅲの評価に関しては、いつも苦慮しているところである。本校では芸術Ⅲの選択については、文系の総合選択（古典講読・数学研究・体育実践・芸術Ⅲ・英語Ⅱ）の中から選択できることとなっている。進学を念頭に座学を選択する生徒が一般的ではあるが、「芸術が得意だから」「芸術関係の大学に進学したいから」といった理由から芸術Ⅲを選択する生徒が多い。いわゆる「座学がいやだから」という消極的な生徒は、ほとんど見られない。このため、人数こそ一桁で少ない選択者ではあるが、統計的に一・二年次において平均点を大きく上回る生徒達である。本校も成績に関する内規の中で、平均点が六〇プラスマイナス五と定められている。少人数の講座に対する考慮はあるものの、結果的にそれまでの各自の平均点を下回る傾向が見られる。まして積極的に取り組んでいる出前授業に関しても、思うような評価ができない実情がある。このことについては、平成一七・一八年度教科研究報告書の中で、〇〇〇先生が御指摘されている「生徒の学習到達度が満足なものであれば、それなりに高く評価をしたい」という点について同様に考える。

## 七 まとめ

平成二二年三月、高等学校新学習指導要領が告示された。この中で、教育内容の主な改善事項として「言語活動・伝統や文化に関する教育・道徳教育・体験学習等の充実」が挙げられている。また、この新指導要領を受けて、平成二二年三月には千葉県立高等学校の教育課程の編成方針が示され、その基本事項の中で「各学校においては、生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、言語活動や体験活動の充実を努め、適切な教育課程を編成するものとする。」と記されている。

“今回の出前授業は新学習指導要領を先行して実施した。”といえは聞こえがいいのだが、もちろん偶然にしか過ぎない。が、大仰を御容赦いただき体面付けるとすれば、今回の体験活動が、コミュニケーション能力を養い、望ましい勤労観・職業観を育成するキャリア教育の一助となってくればと願っている。更に、殺伐とした現代社会の中で、世代を超えた交流が、社会観や道徳観を磨き、相手の立場を理解できる思いやりの精神の涵養に繋がってくれば幸いである。また、改訂された書道の学習指導要領をみると、各学年の内容の取り扱いの中で「内容のB（鑑賞）の指導に当たっては、作品について互いに批評し合う活動などを取り入れるようにする。」とある。同級生を相手にした模擬授業や、児童への示範の経験が、作品を鑑賞する目、批評する能力と言語能力の育成に資するものであって欲しいと考える。

先日、進路指導部の職員から、本校に生徒募集に来た大学職員の話を伺った。聴けば、その職員が担当した面接試験において、書道Ⅲを選択した生徒がいたという。彼女は自身の将来の進路について、出前授業の経験を生かした職に就きたいと解答し、高い評価を得たという。もちろん結果は合格であった。今回の出前授業では、実施に至るまでに費やした時間は少なかつた。しかし、生徒の取り組み姿や、児童の喜ぶ姿、アンケートの集約を見ると、決して徒労に帰したわけではないと感じた。

今回「教えることは学ぶこと」という研究主題を設定した。生徒は一樣に教えることに苦しみ・悩み、そして教えられたことに楽しさと達成感を味わえたようである。この経験が、彼等の将来に何らかの影響を与えてくれるものと信じ、ひいては生涯にわたって書を楽しんでもらいたいと願っている。最後になりますが、御指導を賜りました先生方に心から感謝申し上げます。